



## 那須野が原博物館 で学ぶ 開拓と疏水の歴史

那須野が原博物館の常設展示では、開拓と那須疏水の歴史を紹介しています。迫力満点の那須疏水旧取入口や、疏水の流れを紹介する模型のほか、開拓民の家や生活道具など、当時の暮らしを知ることができます。



# 那須野が原の開拓と

# 那須疏水

明治18年4月15日の起工式から約140年。今も地域を潤す那須疏水と開拓の歴史を紹介します。

▼問い合わせ 函生涯学習課  
☎0287(37)5419

私たちが暮らす、緑豊かな那須野が原。かつてこの場所は、水が乏しい広大な荒野でした。

那須野が原の地層は石や砂利を多く含む砂礫層で、雨が降っても水はすぐに地下深くへと染み込んでしまいます。そのため、地表には川が流れず、共同の草刈り場として利用されるだけの原野が広がっていました。

明治時代に入ると、国は失業した士族の救済や新たな産業の振興のため、開拓政策を進めます。

明治13年から20年頃を中心に、多くの人々が夢を抱き、あるいは生きる術を求めてこの地へ移住しました。しかし、彼らを待ち受けていたのは過酷な現実でした。作物を育てる以前に、日々の飲み水さえ手に入れるのが難しかったのです。数キロメートル離れた川や沼まで、毎日水桶を担いで往復する重労働は、開拓民の生活を圧迫しました。

この地に水を引くこと、それは「命の水」を求める切実な願いだったのです。

この困難に立ち向かったのが、那須開墾社の印南丈作と矢板武でした。彼らは国や県へ粘り強く請願を続け、ついに那須疏水の開削工事が決定します。

明治18年4月15日、烏ヶ森(現在の烏ヶ森公園)で起工式が行われました。工事は驚くべき速さで進められました。重機などない時代、つるはしやモッコなどを使つての人力による作業で、取入口のある西岩崎から千本松までの約16キロメートルの本幹水路を、わずか5か月で完成させたのです。



印南 丈作



矢板 武

同年9月、通水の日。乾いた大地に那珂川の水がとうとうと流れ込み、那須野が原を潤しました。先人たちの不屈の精神と、大地に刻まれた水路の記憶。それは今も私たちの暮らしを潤し続けています。

※土砂などを運ぶ網状の道具



- 1 起工式が行われた烏ヶ森は、今は烏ヶ森公園として親しまれている。
- 2 かつての那須疏水第一分水。近代的な整備がされる前の、人の力で掘られた疏水の姿が写真から見て取れる。
- 3 水桶で水をくむ女性。2つの桶を天秤棒で担いで運ぶのは、重労働だった。



那須疏水旧取入口模型

西岩崎にある、那須疏水の旧取入口(第三次取入口/国指定重要文化財)を1/2スケールで再現。間近で見ると、迫力満点!



那須疏水の流れ

明治18年に開通し、現在まで使用されている那須疏水について紹介。電飾模型では、水路路線を分かりやすく紹介しています。



開拓民の家

復元した実物大の家や道具類から、開拓で移住した人々の当時の暮らしの様子を知ることができます。水桶を担ぐ体験もできます。



ジオラマ

「那須野が原の開拓」と「那須疏水の開削」の様子を再現したジオラマ。パネルにスマートフォンをかざすと、開拓者の話も聞けます。



那須野が原文化財3Dマップ

那須野が原の地形を立体的に表現した3Dマップ。文化財などの位置や概要を見ることができます。オンラインでも見られます。

### INFORMATION

- 開館時間  
午前9時～午後5時  
※展示室への入場は午後4時30分まで
- 休館日  
月曜日(祝日の場合は開館)  
12月29日～1月3日  
くん蒸(じょう)期間
- 観覧料  
一般 300円  
高校生・大学生 200円  
小学生・中学生 100円
- 電話 0287(36)0949
- 場所 三島5-1

那須野が原博物館ホームページ▶

